

平成 28 年 11 月 11 日

保護者のみなさま

豊能町立東能勢中学校
校長 濱野 裕 民

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、4月19日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が、国より9月29日に届きました。以下に校内の分析内容を報告いたします。

1. 調査概要

- 平成 28 年 4 月 19 日（火）に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。
 - 中学校 3 年生を対象に、国語・数学の 2 教科について A テスト（主として知識）と B テスト（主として活用）の 2 種類のテストが実施された。
 - 生徒の生活習慣や学習環境等に関するアンケート調査も同時に実施された。
- ◆公立の中学 3 年生の内、4 月 19 日にテストを受けた生徒は 100 万人余り、全生徒数の 94% にあたる。

※この調査結果については、学力の特定の一部が表れているだけで、本校は、調査標本数が 29 と少ないので、表された数値は、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意しなければならない。

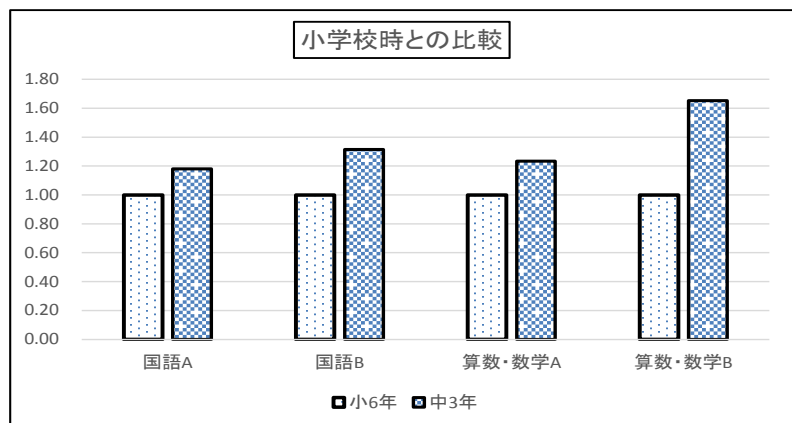
2. 調査結果

【学力調査結果の概要】

国語 A については、全国平均を下回りましたが、国語 B は全国平均とほぼ同程度でした。数学は A・B とも全国平均を上回っており、特に数学 B はしっかりと上回りました。

また、本校の 3 年生が、3 年前の小学校 6 年生の時に受けた全国学力・学習状況調査の平均正答率を 1 として、今回の結果を表すと下の図のようになります。

この図から、この 3 年間で、国語 A・B、数学 A・B ともに力が伸びたということが分かります。大阪府全体では、小学校時よりも中学校になってやや下がっている（本町 H P 掲載の「平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果」参照）のに対し、本校は中学校になって上がっています。



【各教科の分析】

《国語》

(1) 全体概要

今年度は、A区分において全国平均正答率や大阪府の平均正答率を下回った。一方B区分においては全国や府を上回る結果となった。項目による出来・不出来にはばらつきがあるが、A、Bともに課題に応じた情報を得るような問題については力が発揮できている面がみられる。

(2) A区分「主として知識に関する問題」

「読むこと」において、資料活用の仕方については正答率が高かったが、どの領域においても全国平均をやや下回っている。特に「言語事項」では、語句の意味を理解することができるかを見る問題や、文脈に即した漢字の読み書きの正答率が全国平均と比べて低い。基本的な語彙や言葉の知識を増やしていくことが今後の大きな課題である。

(3) B区分「主として活用に関する問題」

どの項目も、正答率が全国・府より高かった。「書くこと」では、課題を決めてそれに応じた情報の収集方法（必要な本の探し方）などが書けており、ふだんの生活につながる部分では対応できていたが、根拠を明確にして書くというような問題や内容理解では課題が見られた。無回答も見られ、今後は内容理解の上に自分の考えを書くという記述力もつける必要がある。

《数学》

(1) 全体概要

「A：主として知識」、「B：主として活用」とも全国の平均正答率を上回っており、本校の生徒は概ね学習内容を理解できていると言える。特に、以下に示すように「B：主として活用」では正答率が全国と比較して10ポイント以上下回っている問題はないことから、知識を活用する力を身につけてきていると言えるだろう。ただ、「A：主として知識」で正答率が全国と比較して10ポイント以上下回っている問題を見てみると、小数や分数を用いた計算での正答率の低さが気かりで、小数点の位置の付け間違えといった間違いではなく、単純なケアレスミスでの間違いが多かった。

今一度どんな問題にも丁寧に集中して取り組む習慣を身につけていく必要があるように思われる。

(2) 正答率による分析

①正答率が全国と比較して10ポイント以上 上回っている問題

「A：主として知識」

- 1(4) 今日の水位が1週間前の水位からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ
- 3(2) 一元一次方程式 $2x=x+3$ の解について、正しい記述を選ぶ
- 5(2) 四角形をその面に垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を書く
- 5(3) 立方体の見取図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ
- 9(3) 反比例を表した事象を選ぶ
- 10(2) 一次関数の式から変化の割合を求める
- 12(2) ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ

「B：主として活用」

- 2(2) $x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する
- 3(2) B車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ

5(2) 25.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く

6(3) 当てる方法を変えるとき、新しい数当てゲームの手順について当てはまる言葉を選ぶ

②正答率が全国と比較して10ポイント以上 下回っている問題

「A：主として知識」

1(1) $\frac{2}{5} \times 0.6$ を計算する

5(1) 三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く

9(2) 比例 $y = 2x$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める

【生徒質問紙の分析<1>（良かった点について）】

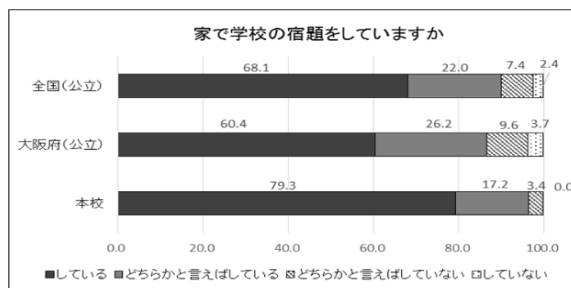
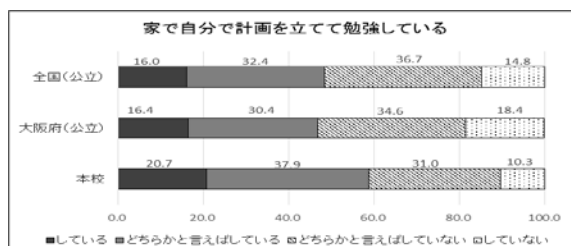
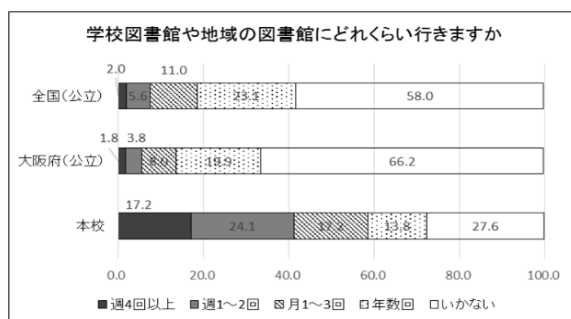
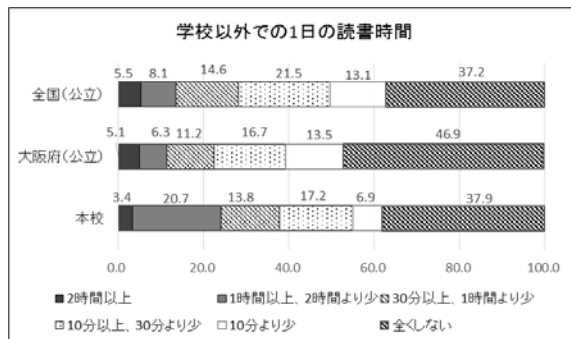
◆ 右のグラフより、大阪府全体生徒に比べ、本校生徒は「2時間以上」「1時間以上2時間より少」「1時間以上30分より少」「10分以上30分より少」においていずれも割合が多く、毎日の生活の中で読書の時間を持ち本に親しんでいる様子がうかがえる。さらに、「2時間以上」と「1時間以上2時間より少」を合わせた生徒数の割合は、全国の1.8倍であり、全国と比較しても、読書によって豊かな生活時間を過ごしている生徒の割合が多いことがわかる。

また、学校図書館や地域の図書館の利用の様子のグラフから、大阪府や全国と比較しても図書館に足を運ぶ機会が格段に多く、「いかない」と回答する生徒が大変少ないことがわかる。これは、図書館が生徒の日常生活に溶け込んだ存在となっていることを示している。毎日の「朝読書」の取り組みや授業での活用、さらに学校図書館の魅力的な読書環境の工夫等の相乗効果の結果ということができ、本校生徒の読書時間の持ち方により影響を与えていると思われる。

◆ 右のグラフは、「家で計画を立てて勉強している」か、を示したものである。計画を立てて勉強「している」「どちらかと言えばしている」と肯定的な回答が、大阪府や全国の生徒に比べ、本校生徒は多い。

また、学校の宿題について質問をした下のグラフより、本校生徒は98.6%の生徒が、家で宿題を「している」「どちらかと言えばしている」と回答している。さらに、本校生徒には宿題を「していない」という回答はなく、生徒の宿題へ意識の高さを示している。

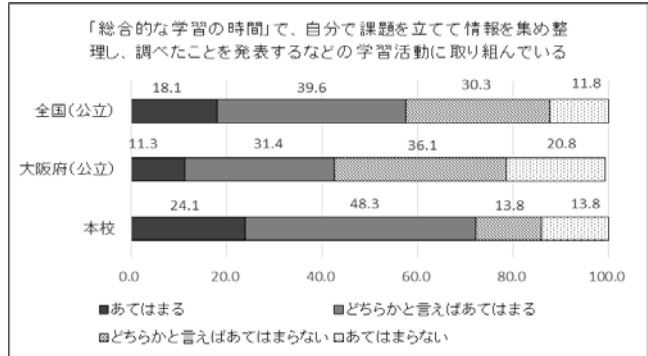
これらは、定期考査前を中心とした学習計画や課題提出についての取組みが成果となって現れたととらえることができる。



【生徒質問紙の分析<2> (授業に対する態度について)】

◆ 右のグラフは「総合的な学習の時間」での課題への取り組み方について質問したものである。本校では、キャリア教育・平和教育の視点から学年を追って取り組んでいるが、「課題設定」「情報収集」「発表」等の学習活動に主体的に取り組んでいる様子がうかがえる。

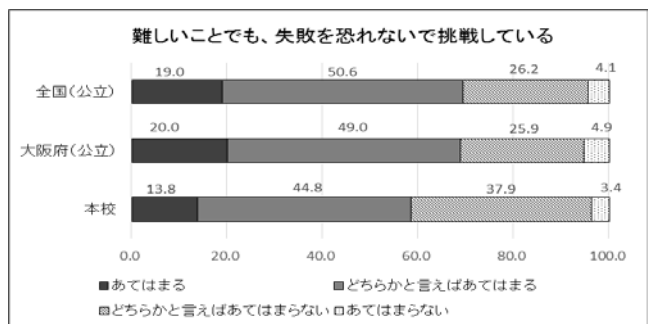
「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない」と否定的に回答する生徒の割合が大阪府や全国の生徒と比較して少なく、生徒の姿勢がうかがえる。



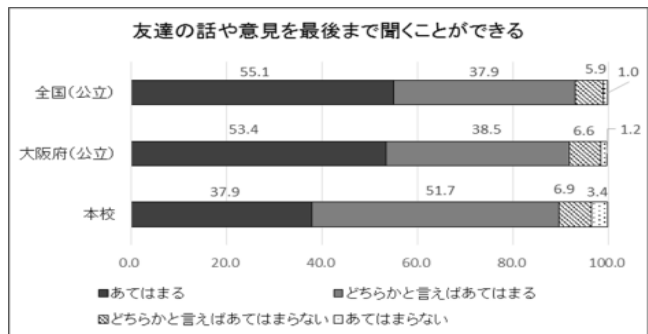
【生徒質問紙の分析<3> (課題について)】

◆ 右のグラフは、ものごとへの「挑戦」する態度や姿勢について質問したものである。

「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と肯定的な回答の割合が、大阪府や全国と比較すると少なく、「どちらかと言えばあてはまらない」と「挑戦」することに消極的な回答の割合が比較的多い現状を示している。



◆ また、友達と話し合うとき「友達の意見を最後まで聞くことができるか」という質問については、大阪府や全国の生徒に比べ、「あてはまる」と回答した生徒の割合が15.5～17.2ポイント低い。また、「あてはまらない」という回答の割合は、大阪府や全国の生徒に比べわずかに多い。話し合いはただ単なる意見の言い合いではなく、意味ある結果に収束するものでありたい。話し合いでは、自分の意見や意思を伝えることも大切であるが、相手の意見をしっかりと聞き、それを踏まえた意見であることが望ましい。



3. 改善計画

- ◆ 「スクール・エンパワーメント事業」に取り組み、組織的な学力向上の取り組みの一層の推進を図り、中学校区として小中一貫教育の取り組みを進める。
- ◆ 日々の授業において、焦点化・視覚化・共有化と振り返り活動を意識した魅力ある授業（ユニバーサルデザインによる授業）をさらに発展させていく。
- ◆ 小学校と連携をとりながら作成した「東能勢中学校校区授業スタンダード」を活用し、低学年から学びたいと思う心の育成に努めるとともに、人を傷つける言葉、いじめは許すことのできない人権問題であるという認識のもと、小中一丸となって取り組む。
- ◆ すべての生徒にとって授業が安心できる学びの場であるため、生徒の自覚ある授業規律の確立を行うとともに、連絡帳の取り組みや「毎日宿題⇒終礼で配布し翌日の朝礼で回収」・週末課題などの取り組みを徹底して行う。